

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770700254
法人名	有限会社マイルドケア
事業所名	グループホームたんぽぽの家
所在地	香川県東かがわ市湊263-1 (電話) 0879-26-3385

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価決定日	平成20年1月24日

## 【情報提供票より】(19年11月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年 3月 21日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計 9人
職員数	7人	常勤 7人、非常勤 0人、常勤換算 7.0人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	8,000円+実費
敷金	有( )円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	400円	昼食 500円
	夕食	500円	おやつ 100円
または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	8名	男性 3名	女性 5名
要介護1	0名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 81.1歳	最低 71歳	最高 86歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田村内科医院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

安心・安全・気配りをモットーとし、利用者の尊厳を重視したケアの実践に取り組んでいる。個々の生活ペースを大切にしながら、オムツを使用しないケアに力を注ぐほか、食事内容に重点をおき、副食の品数を多くし、食器や彩りにも配慮がなされ、満足度も高い。また、ホームの全体会やカンファレンス、勉強会にて、理念の共有に取り組むと共に、併設するサービス事業所との全体会や合同委員会を開催し、連携が図れている。報告書や個別記録等の書類整備が確実に実施され、家族への周知も徹底されているほか、介護計画書の作成や利用者支援に活かすため、センター方式のシート活用やロールプレイを通して、利用者の気持ちを把握することに視点をのこした支援に努めている。今後ますます、事業所の名のごとく、地域に根ざしたホームとなるよう取り組みに期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価を基に、改善のための話し合いを行い、生活空間づくりとして、共有スペースにコタツを置いて家庭的な雰囲気となるよう工夫したり、玄関まわりに季節の花を飾ったり、利用者が描いたたんぽぽのイラストを掲げる他、利用者が自由にコーヒーが飲めるようカウンターにセッティングする等の改善に取り組んでいる。また、介護計画においてセンター方式を活用し、モニタリングに役立っている。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 自己評価や外部評価の意義について、理解が得られるよう職員に周知している。今回の自己評価は各項目について、職員からの意見を聞き、記載をすすめた。
重点項目②	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> 2か月に1回運営推進会議を開催している。利用者や家族が参加しやすいようにホームの食堂で行い、運営やサービスの質の向上につながるよう、参加者からの意見聴取を基に、実践に取り組んでいる。毎月の入退居状況報告の際や介護保険の更新申請の時期に、市担当者との情報交換を行い、連携を図っている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> 月の報告書や暮らしぶり、様子を毎日コメントした書面を複写し、利用者がホームで作成した作品や写真等も同封して、毎月報告を行っている。面会の際には、管理者や職員が日常の様子を伝えたり、要望についても何うようにしている。また、苦情相談窓口を家族に説明すると共に、意見収集のための「苦情箱」も設置し、意見や要望が伺える環境づくりを行っている。
重点項目④	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 地元の祭りへの参加、近くの小学校・保育園との交流、散歩に出かけた際に挨拶する付き合いなどは、少しずつできてきているが、自治会や地域活動への参加など、地元の人々と気軽に交流するまでには至っていない。今後の目標として、ホームが一層、地域に根ざしたものとなるよう、地域活動、自治会活動を通して、生活の中での地域との付き合いを重視した取り組みを期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者をはじめ、管理者や職員間での話しあいを持ち、安全・安心・気配りをモットーとし、その人らしく暮らせることを願っての事業所理念や運営方針をつくりあげ、実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム入口に理念を掲示し、毎朝朝礼時に理念を唱和している。また、ホームの全体会では、代表者が開設に至った思いを伝える等の機会を設け、全職員が一緒に話し合い、理念の共有と実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の祭りへの参加や近くの小学校、保育園との交流、散歩に出かけた際に挨拶する付き合いなどは、少しずつできてきているが、自治会や地域活動への参加や地元の人々と気軽に交流することまでには至っていない現況がみられる。	○	開設後、徐々に地域交流として行事参加は行ってきたが、今後の目標として、ホームが地域に根ざしたものとなるよう、生活の中での地域との付き合いの視点を重視した取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義について、理解が得られるよう職員に周知している。前回の評価結果を踏まえ、改善について検討するための話し合いの機会を持っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族が参加しやすいホームの食堂で行い、会では、事業所の取り組み状況についての報告や参加者からの意見を聞くことにより、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>毎月の入退居状況報告の際や介護保険の更新申請の時期に、市担当者との情報交換を行い、連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の報告書にて、医療・日常生活・小遣いの報告を行うと共に、毎日暮らしぶりや様子を記載した、月ごとの書面を複写して送付している。また、利用者がホームで作成した作品や写真等も同封し、報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会の際に、管理者や職員が日常の様子を伝えたり、意見交換や要望についても伺うようにしている。また、苦情相談窓口を家族に説明すると共に、意見収集のための「苦情箱」を設置し、意見や要望が伺える環境づくりを行っている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動について、馴染みの関係を大切にす観点から、原則として行わないようにしている。変わる場合は、十分な引継ぎを行うと共に、慣れるまでは、管理者や他の職員が補いながら、支援に努めるようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内で毎月勉強会を開催すると共に、外部研修への参加は出勤として取り扱い、様々な研修に、職員の段階に応じて参加できるよう調整を行っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>香川県グループホーム協議会に所属し、情報交換や相互交流を図っている。近くの事業所とも、運営や取り組み等について、意見交換等を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状態や意向を把握するため、自宅や病院へ訪問したり、家族と共にホームに出向いていただくよう声かけし、顔なじみとなり、安心して利用できるよう、段階を踏まえての対応を家族と相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の中には役割意識をもっている方も見られるが、ホーム全体としては、利用者と職員が共に助け合い、支え合いながら一緒に過ごすまでの十分な実施には至っていない。	○	職員が、利用者から生活の知恵などのアドバイスを受ける場面作り等に配慮したり、利用者のできることを見極め、生きがいとなるような役割作りへの取り組みを今後期待したい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の気持ちシートの活用や、ロールプレイを通して利用者の思いの把握に努め、できる限り自宅にいるときの生活が継続できるよう取り組んでいる。また、晩酌の希望については対応している。ケアプラン立案時に、本人・家族の意向を記載し、本人本位に検討するよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン立案の際には、本人、家族を交えてのサービス担当者会議を開催し、要望や意向の把握等を行うようにしている。ホームのカンファレンスでは、ケアのアイデアについて意見交換する機会を設けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間ごとに定期的に見直されている。状態が変化した場合は、その都度見直すようにしている。また、センター方式の24時間ケアプランシートを活用し、毎月のモニタリングを行い、必要時には、カンファレンスにつなげるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族と相談しながら、通院介助や外出支援について柔軟に対応している。また、家族からの宿泊の希望があった場合は、布団等の持ち込みがあれば宿泊は可能である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を伺い、入居前からのかかりつけ医を受診したり、協力医療機関の往診にて日々の健康管理ができるよう支援体制を整えている。通院の支援については、受診前に家族へ受診の旨を連絡すると共に、当日の担当者は、受診結果や経過を記録表に記載し、経過が分かるよう書面を作成している。家族への報告も確実に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応の指針を作成し、本人家族へ説明を行い、意向把握に努めている。また、職員全員にも周知し、状況に合わせて話し合いを行う体制も整っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて、職員への周知徹底を図り、記録の管理、取り扱い方法、保管場所を定めて対応している。利用者への尊厳を重視し、自尊心を傷つけることのないよう言葉かけに気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースで生活できるよう、朝の食事時間は各々で異なっている。利用者の意思を尊重し、無理強いしないよう対応に心がけている。コタツで横になっている方、掃除をしている方などと、それぞれのペースで過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や職員が、一緒に食事の準備や片づけを行い、食事と一緒にされている。食事時間が楽しみとなるよう、食事内容に重点をおき、ご飯、汁の他、おかずが4～5品用意されている。食器は、盛り付けや色どりへの配慮が行き届いているほか、選択メニューを導入している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度の入浴時間は夕方ごろに決めているが、希望によって対応もできるようにしている。入浴回数は本人の希望により、毎日の方や週2～3回の方など希望も様々で、個別の対応を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみや気晴らしになることとして、自由にコーヒーが飲めるよう食堂のカウンターにセッティングを行っている。ホーム内の掃除、食事の準備、片づけ等、利用者の得意なことを活かし活動されている場面も見られたが、ホーム全体としては、まだ十分な実施には至っていない。	○	利用者各々の生活歴の中から、本人が得意なことを把握し、生活の中で活かせるような場面作りの配慮や、環境作りへの取り組みを今後も期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出として、毎日、ホーム北側の海辺に近い道を散歩したり、利用者の希望での買い物やホームで必要なものを利用者と一緒に行ったりしている。また、年に数回、遠足を取り入れ、家族と一緒に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることへの弊害については、職員に理解が得られるよう周知しており、実際に日中は鍵をかけていない。また、玄関にベルを付けることで補う工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内では、防火訓練を年2回程度実施し、連絡方法についての周知は徹底できている。地域の方への火災や災害時における協力について、運営推進会議で呼びかけは行っているが、合同で訓練を行うことまでは、十分な実施に至っていない。	○	ホームとして、防災訓練の機会を増やしていきたいとの考えがあり、地域等が参加しての訓練への取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスのとれた献立を作成するほか、ミキサー食、減塩食、透析食等の個別対応を行ったり、職員が連携して、食事摂取量・水分摂取量の把握にも努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には食堂のほか、和室コーナーやテレビ前にはコタツコーナーがあり、くつろげるよう配慮されている。居間のカレンダーを利用者と一緒に毎月手作りしたり、3か所のトイレには手作りの暖簾をかけ、さりげない目印としている。玄関周りには、季節の花や利用者が書いたたんぽぽのイラストを飾り、家庭的な雰囲気作りを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやカーテン、エアコン、収納庫はホームで用意されているが、利用者愛用の家具や自宅で使用していたタンス等を持ち込み、利用者の好みに合わせて居心地よく過ごせるよう配慮されている。		